



少子高齢社会から心豊かな長寿社会へ

令和3年度における活動実績・成果の概要

①国際共同研究2件を行った。台湾及びトルコの研究者の共同研究を通じて、鬱の問題や労働供給に対するAIの影響などについて活発な議論を行った。一部の研究結果はディスカッションペーパーとして公開し、国際学術誌へ投稿する準備をしていた。参加者：許永河教授（国立成功大学）、Meltem İNCE YENİLMEZ准教授（Izmir Demokrasi University）、吉田浩教授（東北大学）、陳鳳明助教（東北大学）

②令和4年2月18日に高齢経済社会研究センターが「高齢社会における社会保険財政の問題解決に向けて」を題にオンラインシンポジウムを開催した。3名の学内外の研究者より社会保険財政に関する研究報告を行った。参加者15名。

③高齢経済社会研究センターニュースレターの中から9本の研究短選出し、英訳を行った。当プロジェクトの中間報告書として準備をした。

④当プロジェクトメンバーが講演会やマスメディアを通じて少子高齢化に関する研究成果を積極的に社会に発信した。

・吉田教授が令和3年度仙台地区経和会総会（@片平さくらホール）で記念講演「新型コロナウイルスの社会・経済的影響分析について」を行った。

・陳助教が令和4年3月19日に開催した2021年度地域産業復興調査研究シンポジウムで「震災がこころの健康に及ぼした影響－震災転居とメンタルヘルスについて－」（吉田教授との共著）をテーマに報告し、元になる論文は書籍の一部として出版された。

・吉田教授は複数のマスメディア（日本経済新聞、NHK仙台放送局、仙台経済界、仙台放送、朝日新聞朝刊（京都版）、Wedgeインターネット版など）を通じて研究成果を積極的に社会に発信した。

東北大学大学院経済学研究科高齢経済社会研究センター

<https://sites.google.com/view/caestop/home>



令和3年度経和会総会記念講演（吉田教授）